

《協議 1》平成 30 年度の血液製剤需要見込みについて

(参照：資料 2-1)

(1) 赤血球製剤

ア 需要量見込み：60,550 本

イ 推計方法

赤血球製剤の供給は、平成 24 年度から 26 年度までは 63,000 本前後で推移していたが、平成 27・28 年度は 61,000 本を下回っている。平成 29 年度の供給見込量は、4～8 月の実績は 25,248 本で前年と比較すると 5 月を除き各月で前年同期より微減しており、下半期も同様の傾向が見込まれることから、年間で 59,951 本と見込まれる。

このため、平成 30 年度の需要見込量は、今年度の供給見込量の近似値の 60,550 本とする。

H28 供給実績	(H29 需要予測)	H29 供給見込	H30 需要予測
60,926 本	(61,000 本)	59,951 本	60,550 本

(2) 血漿製剤

ア 需要量見込み：19,620 本

イ 推計方法

血漿製剤の供給実績は平成 24 年度から平成 25 年度にかけては減少したが、その後は微増傾向にある。平成 29 年度の供給見込量は、4～8 月の実績は 7,767 本で前年同期 (7,008 本) の 110.8%となっているが、血液センターが医療機関から聴き取りを行ったところ今年度は手術件数が増加傾向にあることから、年間で 19,443 本と見込まれる。

このため、平成 30 年度の需要見込量は、今年度の供給見込量の近似値の 19,620 本とする。

H28 供給実績	(H29 需要予測)	H29 供給見込	H30 需要予測
16,409 本	(15,800 本)	19,443 本	19,620 本

(3) 血小板製剤

ア 需要量見込み：94,760 本

イ 推計方法

血小板製剤の供給実績は平成 24 年度から 25 年度にかけてはほぼ横ばいであったが、平成 27 年度以降は減少傾向にある。平成 29 年度の供給見込量は、4～8 月の実績は 37,965 本で前年同期 (38,880 本) の 97.8%となっており、下半期も同様の傾向が見込まれることから、年間で 93,822 本と見込まれる。

このため、平成 30 年度の需要見込量は、今年度の供給見込量の近似値の 94,760 本とする。

H28 供給実績	(H29 需要予測)	H29 供給見込	H30 需要予測
96,720 本	(94,000 本)	93,822 本	94,760 本

平成30年度の血液製剤需要見込みについて

表1 血液製剤供給状況の経年変化及び平成29年度の需要量推計

上段()は需要見込量、下段は供給量(H29は供給見込)

年度	24	25	26	27	28 (旧単位)	28 (新単位)	29 (新単位)	30 (新単位)
項目								
総計	(193,000) 203,839	(192,000) 200,242	(204,600) 201,673	(203,000) 183,979	(190,900) 181,635	(183,304) 174,055	(170,800) 173,216	(174,930)
赤血球製剤	(68,000) 63,496	(65,000) 63,239	(64,000) 62,771	(65,000) 60,430	(60,400) 60,926	(60,400) 60,926	(61,000) 59,951	(60,550)
血漿製剤	(27,000) 27,263	(28,000) 23,496	(27,000) 23,897	(25,000) 23,689	(23,500) 23,989	(15,904) 16,409	(15,800) 19,443	(19,620)
血小板製剤	(98,000) 113,080	(99,000) 113,507	(113,600) 115,005	(113,000) 99,860	(107,000) 96,720	(107,000) 96,720	(94,000) 93,822	(94,760)

※平成29年度「推計値」は、下記のとおりである。
 : 上半期は実績とし、下半期は過去3年間の月平均を基に血液センターの各医療機関からの使用量見込の情報を加味した本数
 ※平成29年度より、血漿の需要見込み量は、新単位で算出している。(FFP 120=1単位(新単位)、120=1.5単位(旧単位))

